

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号	19
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する。 (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う。 (3) 地域社会の向上に貢献できる人間を育てる。
2 評価する領域・分野	◇教務部
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・授業の工夫、人権を尊重した言葉遣い、公平感であまりあてはまらないとした生徒 約9% ・学習の評価、個に応じた指導、少人数授業での評価は、いずれも90%強が高評価。 ・保護者の評価では、HPでの情報発信や学校行事についてよくわからないとした割合は11%。 ・中高の交流での評価について、よくわからないとした割合14%。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 教科指導 (1) 生徒の実態に応じた指導計画の作成 (2) 基礎・基本内容の習得と主体的な学習態度の育成 (3) 創意工夫ある授業の実践 2 今後も継続発展させる職員の体制 (1) 授業規律確立に十分配慮しかつ家庭学習に支えられた授業展開 (2) 諸活動に対する教職員の協力体制の充実 (3) 学力の向上に向けた教職員の組織的対応の推進 (4) 学習習慣の確立への支援 (5) 「総合的な学習の時間」実施に関する企画・調整 3 コンピュータを活用した校務処理の体系化 (1) 校内ネットワークに関するセキュリティの向上 4 情報発信 (1) 電子メディアによる情報発信 (HP、携帯連絡網<メール配信システム>) (2) 活字メディアによる情報発信 (学校案内等の編集) (3) 本校に関する報道記事の収集と保存 5 連携型中高一貫教育の充実 (1) 西濃地区連携型中高一貫教育事業の推進 6 地域連携 (1) 地域連携による活力ある高校づくりの推進
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会 ・教科書選定委員会 ・補助教材選定委員会 ・情報公開検討委員会 ・総合的な学習推進委員会 ・学習成果発表会実行委員会 ・地域連携による活力ある高校づくり推進事業
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 年間指導計画の作成依頼、集約。学期末、授業改善への取組の検証及び反省の記録の依頼集約 (2) 連休課題等を早めに配布することで、学習習慣の確立への支援を行うことができた。 (3) 「授業改善研修会」の実施 (4) 学校設定教科「デュアル実習」の実施推進 (5) コンピュータセキュリティ意識の向上 (6) メール配信システムへの登録状況向上 (7) HP更新(揖斐高Topics、各種通信など)、新聞記事の許諾申請・掲示 (8) 町教委、連携中学校、本校と連携行事(中高一貫教育事業)の調整	(1) 年間指導計画の作成に関して各教科への確に依頼できたか。 (2) 適切な配布時期で実施することができたか。 (3) 授業改善にむけて、テーマに合わせた研修が実施できたか。 (4) 計画的に推進し、成果をあげることができたか。 (5) チェックシートを通して意識の変革ができたか。 (6) 登録者が100%となったか。 (7) HPの更新、新聞記事の掲示など情報発信が滞りなくできているか。 (8) 前年度出た課題について、改善しながら進めることができたか。

(9) 地域の各機関と一体となり、地域に貢献できる人材の育成推進		(9) 推進協議会の立案をし、人材の育成に向けて推進できたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①年間指導計画の作成依頼・集約と学期末授業改善の為の反省記録の依頼集約	①各教科に的確に依頼できたか。	(A) B C D	
②学習習慣の支援を行うために連休課題を早めに配布。	②適切な配布時期に実施できたか。	(A) B C D	
③「授業アンケート」の実施による生徒の状況把握、改善実践状況の交流	③授業改善に活かせることができたか。	A (B) C D	
④「デュアル実習」の指導	④当初の指導計画通り実践できたか。	(A) B C D	
⑤チェックシートの提出と確認の徹底	⑤セキュリティ意識が向上したか。	A (B) C D	
⑥配信メールの登録と帰宅確認訓練の実施。	⑥登録者数と回答率の向上。	A (B) C D	
⑦HPの更新、記事の掲載及び許諾申請の提出などの実施。	⑦更新頻度。すみやかな新聞記事掲示。	(A) B C D	
⑧連携行事のスムーズな運営	⑧課題を解決しながら運営できたか。	A (B) C D	
⑨地域連携による活力ある高校づくり推進事業の実施	⑨推進協議会の立案と実施ができたか。	A (B) C D	
⑩他分掌との連携と学校行事の遂行	⑩学習支援、教科・分掌との連携	A (B) C D	
11 成果・課題	<p>①○各学期末の適切な時期に各教科に配布し、反省などの記入の依頼ができた。 ▲記入事項などの依頼方法を検討したい。</p> <p>②○長期休業課題を保護者懇談時に配布し、早期に知らせることができた。</p> <p>③○教科ごとの特性を考慮しながら授業改善の観点を挙げる事ができた。 ○他教科の授業参観をすることで、見識を広めることができた。 ○マークシートを改善し、集計の負担を減らすことができた。 ▲アンケートの結果を反映させるために、1年間に同じアンケートを実施し、経過を考察する方法も考えられるが、負担も多い。</p> <p>④○新しい企業に実習を受け入れてもらい、全員が実習した企業へ就職することができた。進路決定において新しい流れとなった。 ▲次年度の実習希望生徒が選択科目決定ギリギリの12月に追加ができた。 デュアル実習の希望を取るタイミングを検討していきたい。 ▲食品関係の実習を希望する生徒が多く、受け入れ先を探すのに苦慮した。</p> <p>⑤○チェックシートの回答率が向上した。</p> <p>⑥○帰宅確認が年に2回実施し、登録の確認が複数回できた。 ▲未登録者への対応をし、必要性を周知徹底したい。</p> <p>⑦○HPや新聞記事について、更新・掲示をすみやかに行うことができた。 ▲揖斐高トピックスの担当が決まっていなかった。 ▲校外で撮影された画像がわかりにくい時があった。</p> <p>⑧▲中高一貫教育評価委員会にて、「連携は実感できるが、一貫の認識は薄い」との新しい課題が見つかった。</p> <p>⑨○授業参観や生徒との懇談会などを通して、地域の行政・産業界を代表する方々に揖斐高校の教育活動全般について理解していただく機会となった。 ○揖斐川町内の中学2年生が学習成果発表会の公開リハーサルの見学など協議の中で要望のあったことについて、課題を解決しながら実施した。 ○地域と連携している先進校を6名の教員が視察し、他校・他県の実践について協議会で報告した。 ▲揖斐高校の魅力が地域の方々に伝わるように、取組を校内全体に広げたい。 ▲生徒や教員の負担があった。</p> <p>⑩▲中学生対象の行事などの企画がスムーズにできなかった。</p>	総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>①職員への早期な時期及びわかりやすい見本を添付しての作成依頼と確実な集約。</p> <p>②長期休業課題について適切な時期の配布の検討。</p>		

- ③授業改善の啓蒙と実施目的の周知徹底。授業改善をより良いものとする方法の検討。
- ④デュアル実習の希望調査時期の検討と地元企業の開拓。
- ⑤セキュリティに対する意識向上に向けて日常的に呼びかけ、指標などを作成する。
- ⑥行事などの情報を配信。未登録者の定期的なチェック及び登録への個別対応の実施。
- ⑦活動や行事を記録する担当者、保管場所や情報発信などについて職員会議にて共通理解し、簡単に検索できる方法を考えたい。
- ⑧中高一貫校の一貫性を感じられるように「卒業生と語る会」などの企画をしていきたい。
- ⑨先進校視察を継続し、他校で成果を上げている事業を取り入れ、地域に発信していく。
- ⑩行事の際の教務内の役割分担などを再考し、他の分掌や学年と連携をとって学校行事を行う。

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「迷惑調査」と「教育相談週間」については年間3回実施している。今年度は「いじめ」の訴えが2件(12月末現在)あった。それ以外にもクラス、部活動などで人間関係のトラブルは散発しており、定期的に調査を実施するとともに、自己理解や他者理解の力を育てる取組は今後も検討していく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基本的な生活習慣確立の徹底 (1) 欠席・遅刻の防止対策 2 生命尊重の態度と人権意識の伸長の徹底 (1) 交通安全指導 (2) 生命や自他の生活を大切にできる生徒の育成 3 規範意識の醸成 (1) ルールの遵守とマナーの向上にむけた指導 (2) 問題行動の未然防止に努める (3) 携帯電話・スマホ使用の改善に向けての指導	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会 ・いじめ防止対策委員会 ・人権教育委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 校門あいさつ指導 (2) 通学路立哨指導、交通安全教室 (3) 情報モラル教室、全校集会での啓発、養老鉄道乗車指導	(1) 遅刻者数の前年度比 (2) 交通事故発生件数の前年度比 (3) 問題行動発生件数の前年度比	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・学年団による校門あいさつ指導、生徒による挨拶活動、MSリーダーズによる交通指導などは協力も得られ実施している。 ・通学路立哨指導は通学路の見直しを含め年度・月当初に実施しており、鉄道乗車指導は定期的に行っている。 ・交通講話、情報モラル講話、人権講話などの啓発活動も、全校生徒対象に実施している。	①遅刻者数減少(764→706) 欠席者数減少(1896→1409) ②交通事故減少(9→8) (自動車同乗事故1件含む) ③問題行動件数増加 (学校反省)23(12)→23(14)	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○組織的に指導をすることができた。 ▲転退学者数は昨年より減少した(18→7)が、依然として心に病を抱える生徒が多くみられる。自己肯定感・自己有用感を高める指導を学校全体で取り組んでいきたい。 ○不登校傾向の生徒がいるため、欠席者は多いが、遅刻しても登校しようという姿勢はみられた。遅刻防止啓発活動を継続していきたい。 ▲交通事故の件数は減少したが、交通マナー指導の強化が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案		
○新入生に対する適応指導を充実させる。 ○いじめ未然防止についての研修の機会をもつ。 ○学習障がい、保護者対応などの今日的な課題に対する研修の機会をもつ。 ○遅刻防止対策の活動を継続する。		

2 評価する領域・分野	◇進路指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「学校評価アンケート」結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の希望に沿った進路指導をしている」 生徒 78%(H26) 87%(H27) 90%(H28) 91%(H29) 保護者 82%(H26) 84%(H27) 88%(H28) 84%(H29) 生徒の評価は90%を超えているが保護者はそう感じていないようだ。100%目指して、更なる工夫が必要だ。 ・保護者に対して「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」の質問に否定的に捉えた方が10%いた。年々否定的な数字が下がってきているのは、3年生の保護者向けの進路説明会等が定着してきたのではないかと考えている。更なる工夫や1年生と2年生の保護者向けの情報提供が必要だと感じた。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基礎学力の定着 2 キャリアアンカーを見つけさせ、進路実現 3 コミュニケーション能力の育成		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年会の進路目標を実現するために、進路指導部がリーダー的な存在になれる学校体制を整える。 ・各学年会と連携し、「揖斐Basic」「進路ガイダンス」「3年生保護者対象進路説明会」「学校見学会」「外部講師による面接指導」「1分間スピーチ」等を実施した。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 「揖斐Basic」による学び直し、問題集による基礎学習（作文練習・一般常識ドリル）外部模試 (2) 進路ガイダンス、面接指導、補習などの実施や地域への体験学習や学校見学など、多くの校外体験学習の実施	(1) 揖斐テストおよび外部模試の結果で評価（各自の設定した目標が達成できたか） (2) 「進路適性検査」「各行事のキャリアアンケート評価」（各自の設定した目標が達成できたか）		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①「揖斐Basic」による学び直し、問題集による基礎学習（作文練習・一般常識ドリル）は、年間計画に基づいて実施している。 ②適切な進路情報の提供や進路ガイダンスや面接指導、補習、学校見学、地域への体験学習を計画的に実施している。また、すべての行事の中で、コミュニケーション能力の育成を意識させる指導を実践する。	①揖斐テストで学び直しの評価、外部模試の各生徒の成績推移で評価 ②多くの進路情報を収集し、自分は「何をしたいか」「何に興味があるか」を「進路適性検査」でチェックして評価地域への体験学習・学校見学などの多くの体験や学校行事を通して、コミュニケーションが図れたかを評価（各行事のキャリアアンケート評価）	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D	
11 成果・課題	○「揖斐Basic」による学び直しや問題集学習により、ある程度の基礎学力の定着が図れた。 ▲多くの体験学習等から「何をしたいか」「何に興味があるか」を見つけさせ、「進路自分調査」でチェックをし、自分にあった進路選択をし、進路実現ができたかどうかをどのように検証していくかが課題である。 ○進路ガイダンスや学校見学は、生徒にとって有意義だった。 ○保護者説明会の実施等で保護者への情報提供がうまくできたが、更に保護者や生徒が必要とする進路情報や進路意識の向上に繋がる説明に心がけたい。 ○コミュニケーション能力を高めることの必要性が浸透し、多くの進路行事などで、コミュニケーションを意識し活動させることができた。		総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1) キャリアアンカーを見つけさせ、進路実現 ①進路ガイダンスのあり方（学校見学を含む） ・生徒の実態にあわせた各学年主導の進路ガイダンスを考える。 ②進路実現のチェック ・各生徒にあった進路先をどのように見つけさせるかを課題とし、指導方法を模索する。			

<ul style="list-style-type: none"> ・進学や就職がなかなか決まらない生徒への指導方法を模索する。
(2) 進学個別体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも個別対応ができるよう、進学相談や進学先分野別の進学体制を整える。(受験までの個別計画をつくる) ・今年度は、約50%の進学率であった。卒業後の多様な可能性を拓げるため、進学率を維持していきたい。1年から対策を考える。
(3) 公務員試験への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・2年生から、希望者を募り、外部講師を利用して体制を整えたい。
(4) 基礎学力の定着 <ul style="list-style-type: none"> ①「揖斐Basic」 <ul style="list-style-type: none"> ・1学期終了時点で、成績の優れない者を学習室で手厚く指導する。(習熟度の実施) ・来年度は、進度を遅くして丁寧に指導する。 ②総合的な学習の時間を利用 <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の1学期で「揖斐 Basic」を実施する。
(5) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度結果の出せた行事等の取り組みは、来年度も実施していく。

2 評価する領域・分野	◇特別活動部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、部活動、生徒会活動に関する問いに対する肯定的な回答は、生徒が約8割で例年と比べやや高い数値となった。 ・「学校は学校行事や生徒会活動で、生徒に自己実現する場を設けている」の問いに対する保護者の肯定的な回答が9割を超えた。この評価を継続できるようにしたい。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 生徒が自ら考え行動する力を育てる。 2 委員会活動の充実をはかる。 3 部活動への積極的な参加を促す。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の話し合いの場の設定と研修会の実施。 ・各委員会顧問との連携。 ・各部活顧問との連携と生徒へのはたらきかけ。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 定例の執行部会の開催・リーダー研修会の実施。 (2) 委員会活動の活性化と新しい企画・取り組みの検討。 (3) 1年生の部活動の全入制の継続。部の活動状況の広報。	(1) 生徒の自主的な話し合い・活動がなされたか。 (2) 各委員が活動に積極的に参加するようになったか。 (3) 新入生が部活動を継続できているか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎週1回の生徒会執行部会、長期休業中のリーダー研修会の実施。 ・委員会活動への参加を促し、新しい取り組みの検討。 ・部登録カードを活用し、HRTが活動状況を把握しやすくする。 	① 活発な意見交換、意欲的な活動状況がみられたか。 ② 生徒の委員会活動への参加状況。 ③ HRTと部顧問との連携がなされたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	○生徒会執行部員は文化祭、体育祭の企画運営や各委員会の活動、ボランティア活動に責任を持って取り組めた。 ○生徒会用掲示板を利用して、部活動、委員会活動を多くの生徒に紹介することができた。また全校集会の間では工夫を凝らした情宣活動ができた。 ▲生徒の委員会活動参加状況は概ね良好であるが、「積極的に」という観点からみるとまだ不十分である。 ▲1年生で部活動を前期終了までに退部した生徒を対象とした学習クラブ参加者は40数名で、例年とほぼ同数である。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部からの情報発信(広報活動)を効果的に行い生徒の生徒会への意識を高める。 ・文化祭・体育祭では、生徒がより積極的、自主的に活動できるよう働きかける。 ・文化祭クラス企画に多様性をもたせ、内容がより質的に向上するように働きかける。 ・部活動に継続的に参加し積極的に活動する姿勢を培う。 		

2 評価する領域・分野	◇保健安全		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠や食事等の生活習慣が確立されておらず、学校生活に影響している生徒がいると推測される。 ・校内美化に関して、最低限の自己の責任は果たしている。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康保持の意識づけと自己管理能力の向上。 2 事故の未然防止と非常変災時に備えた訓練の実施。 3 健康的な環境整備と保全。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理に関する指導。〔保健指導〕 ・校内の安全点検。各種訓練の実施。〔学校安全指導〕 ・生徒による清掃活動の指導。〔環境整備〕 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ol style="list-style-type: none"> (1) 健康診断および事後指導。保健室指導。 (2) 安全点検。命を守る訓練。職員AED講習会 (3) 美化委員会清掃活動。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 再検査受診率の向上。保健室来室者の変化。 (2) 不具合箇所の減少。訓練取組状況の向上。 (3) 清掃の取組状況の向上。 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・各種健康診断の実施および事後指導。保健室指導。 ・命を守る訓練等による、非常変災時に備えた行動体験と意識の啓発。 ・美化委員がクラスの美化活動の中心となることを目標にした各種作業の実施。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 健康診断後の再検査等、事後指導の結果が向上したか。 ② 訓練や講習会に取り組み、意識や行動が向上したか。 ③ 美化委員を中心に校内美化が向上したか。 	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果課題	○昨年度に引き続き運動器検診を実施した。生徒のけがや体調不良に対応できた。 ○予告なしの訓練や、様々な場面を想定（放課後・Jアラート）した訓練を実施して、非常変災時の啓発を行った。 ▲視力検査及び歯科診断後の治療を何度も促し、受診率を向上させる。 ▲場所と状況に応じたシェイクアウト行動や、その後の避難行動が的確にできることを訓練内容とする。 ▲清掃状況チェック加え、美化委員会による美化推進の方法をさらに講じる。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・視力検査及び歯科診断後の治療受診率が50%以上になるよう、対象の生徒と保護者への通知を強化する。 ・自己判断して行動する能力を育成することを目標にした命を守る訓練を実施し、取組結果を生徒にフィードバックして防災意識を高める。 ・2年生対象のDIG（災害図上訓練）は自分が住んでいる地域や生活と結びつけ、身近な問題として考えられるように工夫して継続実施する。 ・美化委員会による掃除状況の点検や学校敷地内清掃活動を継続し、全校生徒の美化意識を育成する。 		

2 評価する領域・分野	◇渉外																					
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携として、 文書をわかりやすく伝えている。81% 確実に届けられている。69% ・PTA等の徴収金について詳細に公表している。88% ・一斉メールサービスは有効に活用されている。88% 																					
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるためにPTAだよりの内容を改善する。 2 保護者への迅速な情報提供として、ホームページやメール配信システムを有効活用する。 3 百周年記念事業について、検討をする。 4 魅力ある図書館づくり 豊かな心を育む「読書センター」、主体的に学ぶための「学習情報センター」として、魅力ある図書館づくり 																					
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員会 ・同窓会理事会、同窓会総会 ・百周年記念事業実行委員会 ・図書館運営委員会 																					
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組みを早くして、内容等を十分に検討する。 (2) メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用する。 (3) 生徒の興味を引きつける図書館広報活動 	<ol style="list-style-type: none"> (1) PTA活動の協力度、役員会議の意見など各会議への参加協力など (2) 同窓会理事会、百周年記念事業実行委員会 (3) 貸出冊数の増加 																					
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																				
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒やPTA活動の情報をよりわかりやすく的確に伝えるために、PTAだよりの取組みを早くして、内容等を十分に検討した。 ・メール配信システムを適宜利用し、連絡に活用できた。 ・同窓会理事会を2回開催した。 ・百周年記念事業実行委員会を開催した。(3回) ・専門科の資料の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ①PTA支援活動等に多くの保護者の協力が得られた。 ②PTA役員の各会議や行事の進捗状況 ③同窓会関係の会議や行事 ④百周年記念事業 ⑤学習支援教科・分掌との連携 	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> </table>	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D	A	Ⓑ	C	D
A	Ⓑ	C	D																			
A	Ⓑ	C	D																			
A	Ⓑ	C	D																			
A	Ⓑ	C	D																			
A	Ⓑ	C	D																			
11 成果・課題	総合評価																					
<ul style="list-style-type: none"> ○PTA役員の皆様のご協力を頂いて、各会議や行事が円滑に進んでいる。 ○外部の会議等にも大勢の方に参加いただいて、PTA活動に対してご理解を得られている。 ○同窓会関係も継続して行事が引き継がれ、軌道に乗ってきている。 ▲メール配信システムなどを利用し、保護者への連絡やお知らせ等を行っているが、各行事への参加者が固定化されてきている。 ○授業利用が前年度より増加。それに伴い、他図書館からの借用資料数も増加 	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">Ⓑ</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> </table>		A	Ⓑ	C	D																
A	Ⓑ	C	D																			
12 来年度に向けての改善方策案																						
<ul style="list-style-type: none"> ○活発な活動・参加ができるよう、PTA役員組織を見直し協力体制の充実を図る。 ○百周年記念事業実行委員会の意識の高揚を図り、具体的な計画を立てできるものから実行に移していく。 ○今後も、一斉メールサービスを活用し、配布物等についても連絡を入れる。 ○生徒の興味を引きつける図書館広報活動の方策の検討 																						

2 評価する領域・分野	◇専門部（生活環境科）																					
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加できており、実習のため居眠りや私語等がほとんどなく、マナーを守って授業を受ける生徒がほとんどである。 ・授業後、更に学びたいと思う生徒が少ない。自主的に勉強している生徒が少ない。→考えさせる場面を多くとる。家庭生活に結び付ける指導を工夫する。 ・応用的な問題は、理解度が低下する。→わからなければ何度も説明する必要がある。関連する内容について、継続的に学習させる。 																					
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導方法の改善、「わかる授業」「さらに学びたい」と思う授業の展開 2 「生きる力」「考える力」の育成 3 地域交流・連携の促進 4 コンクールや検定への挑戦で技術力向上 5 学習成果発表会の成功 																					
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科会議での意思統一と情報交換 ・各分掌・各学年との連携 																					
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																					
<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の目標の明確化とわかる授業の工夫 (2) 授業後の課題、長期休暇・連休課題の提出 (3) 幼児園、中学校、特別支援学校、高齢者施設への実習やボランティア活動の充実 (4) 検定・コンクールへの挑戦 (5) 学習成果発表会に向けて継続的な取組、中間発表等による評価 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 目標が達成できたか生徒による自己評価で判断。 (2) 提出物の評価。 (3) 生徒の振り返り、地域からの意見により判断。 (4) 3年間で被1級・食1級・保2級合格。コンクール入選。 (5) 事後アンケートの集計結果 																					
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																				
<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の年間計画の作成と見直しをし、「わかる授業の工夫」を各自で研修した。 ・未提出物なしにするための粘り強い指導をした。 ・科目「子どもの発達と保育」「子ども文化」「課題研究」等で各コースの特徴を活かした実習に取り組んだ。家庭クラブではボランティア活動を実践した。 ・検定やコンクールの指導を放課後や早朝に実施した。 ・外部講師による講習会を実施した。介護職員初任者研修を開始した。 	<ol style="list-style-type: none"> ①指導と評価の年間計画の内容 ②提出物の状況 ③実習後の感想・反省の内容、施設からの聞き取り結果 ④検定の合格率、コンクール入賞者を昨年度と比較 ⑤生徒の感想、テストによる評価 	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
11 成果・課題	<p>○予定した科目の「指導と評価の年間計画」を作成し、授業改善に役立てた。未作成のものは、来年度作成する予定。</p> <p>▲提出物の期限内提出率が悪い。→未提出者の継続的な指導をする。</p> <p>○新聞社・ケーブルテレビの取材、ホームページでのPRを充実させた。</p> <p>○「魅力ある高校づくり推進事業」での活動を実施し、地域とのつながりが深まり、実習やボランティア活動を充実させることができた。</p> <p>○地域との連携を意識して、「さざれ石のお菓子」（揖斐川町）、「柿レシピ」、「鮎料理」の考案、商品化に向けて活動した。</p> <p>○地域交流センターはなももにて、学習成果発表会や家庭クラブ会長校としての年次大会を無事終えることができ、生徒が生き生きと活躍できた。地域からよい評価をいただいた。地域に根ざした揖斐高を更にPRしたい。</p> <p>▲専門科目で学習した内容が就職、進学先に活かされていないので、開拓していく必要がある。→外部講師との情報交換をし、開拓する。</p> <p>○検定に意欲的に取り組み、多くの生徒を合格させることができた。（編物、着つけ）</p> <p>○県連家庭クラブ会長校としての取り組みが生徒の育成にもつながった。</p> <p>○はなももの発表会にも慣れて、円滑にできるようになった。</p> <p>○「魅力…」の会議など、生活環境科の生徒が活躍し、地域に発信できた。</p> <p>○コンクールへも積極的に応募し、入賞者が多かった。全国ホームプロジェクトコンクールでは、最優秀賞に輝いた。</p>																					
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の年間計画」を完成させたい。作成済みのものは見直し、これをもとに授業改善に努める。 ・教員の技術習得をめざし、科内での研修会を実施し研鑽を積む。 ・学習成果発表会への取り組みを今年度の反省を生かしてさらに円滑なものにする。 ・地域に根ざした揖斐高校の活動を継続実施する。ただし、行事の精選が必要である。 																					

2 評価する領域・分野	◇第1学年		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや服装が良くなってきている。朝の校門挨拶や、きめ細かい指導・声かけを継続していく。 ・家庭との連携で学校からの連絡文書等は、保護者（地域）に確実に届けられているという肯定的なアンケート結果が低い。生徒に指導する必要がある。 ・学校の施設・設備が、学習環境の面で満足できるという肯定的なアンケート結果が低い。普通教室にクーラーなど設備を充実させる必要がある。 ・部活動は全員加入が原則であるが、参加率が低いため制度自体の見直し、部活動の選択肢を増やすなど手を打つ必要がある。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な社会マナーを身に付けさせる。 2 仲間と協調しながら、充実した学校生活を送れるよう図る。 3 学習習慣を確立すると共に、基礎学力を獲得させる。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部と連携し、問題が生じた際に迅速に対応した。 ・定期的に学年会を実施し、職員間で共通理解に努め、学習指導、生徒指導を実施した。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ol style="list-style-type: none"> (1) ベル席の徹底 (チャイムと同時に授業を始める) (2) 学び直しの科目としての揖斐Basicを計画的に確実に取り組み、基礎学力を獲得させる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 概ね達成できた。 (2) 概ね達成できた。 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や時間厳守、言葉遣いなどの社会性の育成と情報モラルに関する指導 ・行事への活動支援と生活、身だしなみ指導 ・授業などの学習への取り組みと揖斐Basicによる基礎学力の定着 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒の状況観察と情報収集 ②学校行事などの取り組み状況の検証、生徒の状況観察 ③学習への取り組み状況の検証、定期考査などの成績状況 	A (B) C D (A) B C D A (B) C D	
11 成果・課題	○朝読書を10分設定することで、落ち着いて学校生活が始められた。2年次も継続して朝読書の時間を充実させていきたい。 ○年度当初はSNSによるトラブルなどが多かったが、学年集会やクラス単位の指導を継続的に行うことで、後期はこれらのトラブルが減少した。 ▲高校生活に向けていない生徒に関しては、細かく記録するとともに、家庭との連絡を密にする必要がある。 ▲長期休業中の学力補充が完了しない生徒がいる。粘り強く指導し、最後までやらせたい。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の担任に生徒情報を確実に伝達し、1学年の指導の延長として2学年の指導をしていく。 ・携帯電話の預かりと朝読書5分前開始の継続。 			

2 評価する領域・分野	◇第2学年																						
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の項目では、より個に応じた少人数制の展開を望んでいる傾向はあるが、おおむね満足していると感じている。 ・学校からの文書が家庭に届いていない場合も多く、HP・メールの活用を充実させる必要がある。 ・校内の施設や環境整備を充実させる必要がある。 																						
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな心の育成（社会適応力を身に付けさせる） 2 学習習慣の確立（授業態度の見直しと家庭学習の充実） 3 キャリア教育の推進（具体的な目標の設定） 4 規律ある生活の確立 																						
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会での意思統一・生徒理解を図る。 ・各分掌と連携をとり、迅速な対応を図る。 ・正副担任と教科担任と連携を図る。 																						
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																						
<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校行事に主体的に取り組み、集団の中での役割を自覚し協調性を身に付けさせる。特に修学旅行を通してコミュニケーション能力を向上させ、円滑な人間関係の築き方を学ばせる。 (2) LHRや学年集会等を利用し、社会で必要とされるルールやマナーを身に付けさせる。 (3) 学力の定着を図るために、未提出物調査などを実施する。 (4) 進路ガイダンスを効果的に活用し、自分の進路について具体的に考えさせる。 (5) 携帯電話の回収 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒会活動や部活動の参加状況 修学旅行アンケート結果 (2) 出席状況、身だしなみ検査結果、ファイル指導などの状況観察、情報交換 (3) 未提出物調査、生徒の状況観察、情報交換 (4) 進路調査、個別懇談 (5) 朝読書前に携帯電話を回収する 																						
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																					
<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の資質に応じた能力の育成。 ② 修学旅行へのきめ細やかな事前指導。 ③ 時間厳守、言葉使いなどの指導とともに、定期的な服装指導による社会性の育成。 ④ 課題の提出状況を把握し、強化と連携した指導の実施。 ⑤ 大学見学会や進路ガイダンスを実施し、進路研究を推進。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校行事などの取り組み状況の検証、生徒観察 ② 生徒観察、情報収集 ③ 身だしなみ検査結果、生徒観察 ④ 学習への取り組み状況、定期考査などの成績状況把握 ⑤ 生徒観察、情報収集 	<table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>(B)</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>(A)</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	(B)	C	D	(A)	B	C	D	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D	(A)	B	C	D
A	(B)	C	D																				
(A)	B	C	D																				
A	(B)	C	D																				
A	(B)	C	D																				
(A)	B	C	D																				
11 成果・課題	<p>○部活動の部長や、生徒会のリーダーとして責任ある仕事を任せられる生徒も見られた。</p> <p>○修学旅行では、事故や大きな規律違反なく、また時間通り行動できる姿が見られた。各教員の指導もあったが、生徒の大きな成長を見ることができた。</p> <p>○朝読書を落ち着いた雰囲気で行うことができた。</p> <p>○進路ガイダンスでは、例年より積極的に参加し、自らの進路研究に前向きに行えた。</p> <p>▲授業規律や課題の提出期限の守れない生徒への指導を継続したい。</p>		総合評価 A (B) C D																				
12 来年度に向けての改善方策案 他分掌や教科担任とのさらなる連携を密にとり、生徒一人一人に見合った指導を行う。進路の決定向け、学力の向上とともに社会で必要とされる力を付けさせる。 朝読書に積極的に取り組めない生徒への指導の徹底																							

2	評価する領域・分野	◇第3学年																		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの文書がきちんと保護者に渡っているか心配である。 ・生徒は学校に対してかなり肯定的な評価をしている。 ・教室を中心とした環境整備をもっと行う必要がある。 ・保護者は教職員の姿勢に肯定的評価をしている。 																		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリア教育の推進と進路実現の達成 2 社会で生きる力の育成 3 最高学年としての自覚・態度の育成 4 連携・協力体制に基づく指導 																		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・正担任・副担任そして教科担任・部活動顧問との連携 ・校務分掌との連携 																		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標																	
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業を軸にして基礎的な学力をつけ、基本的な生活態度の育成を可能にする指導 (2) 総合学習・LHR・放課後等を活用して進路目標を達成する指導 (3) 学校の核として、部活動や学校行事への主体的な参加を促す指導 		<p>*すべての項目において生徒の観察以外に、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 成績概況、課題の提出状況、出欠状況、退学・転学者数、迷惑調査、身だしなみ検査、ファイル指導等の観察 (2) 面接指導報告書、生徒同士の練習状況、正・副担任を中心とした教員との情報交換 (3) 活動日数、戦績、出席率、表彰、学校外の行事への積極的参加など 																	
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10 評価																
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教科担任との情報交換と連携 (2) 家庭との連携・学年団での統一指導 (3) 面接・作文の指導、懇談、情報提供 (3) 部活動や学校行事などへ積極的取り組み 		<ul style="list-style-type: none"> ・成績概況、教科担任による評価 ・出欠状況、身だしなみ ・進路達成状況 ・学内外からの評価 	<table border="0"> <tr><td>A</td><td>(B)</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>(B)</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>(B)</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>A</td><td>(B)</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table>	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D	A	(B)	C	D
A	(B)	C	D																	
A	(B)	C	D																	
A	(B)	C	D																	
A	(B)	C	D																	
11	成果・課題	<p>○例年と比較して遅刻欠席が非常に少なく、落ち着いて学校生活を過ごすことができた。学校行事などにも積極的に参加し、最高学年としても役割を十分に果たせた。</p> <p>▲迷惑調査で「仲間から嫌がらせを受けている」という訴えが2件あった。幸いすぐに対応し、改善が見られた。今後も生徒の言動に気を配り、事前に察知できるよう気を付けたい。</p>		総合評価																
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>年度当初に前学年担当職員との情報交換を密に行う。職員間の情報交換の機会をもっと多くする。</p>																			

【意見・要望・評価等】

- 意見1 体育祭はまとまりがあつてよかった。特に2、3年はまとまっている感じがした。1年生も2、3年を見習って取り組んでほしい。「気を付け」の号令で姿勢を正すことができていないのが残念、きちんとやらせてほしい。個人走で一生懸命走る姿がととてもよく、エール交換の女子の声も大きくてよかった。一生懸命行事に取り組む姿勢ができていことはとても良い。卒業式については昨年度返事がよくできていてよかったが、一部の生徒に私語があり残念だった。今年はそのようなことが無いようにしてほしい。地域においていろいろな場面で活躍が見られ素晴らしい学習成果発表会ができていた。自信を持って卒業式を迎えてほしい。
- 意見2 体育祭は真面目に取り組んでいた。発表会のPRをもっと積極的に行い、多くの人に見てもらえるようにするとよい。福祉の生徒の全員が資格取得できたことはよい。揖斐高ショップ等、地域へ溶け込む活動ができていいる。特産品のPRも続けてやってほしい。
- 意見3 転ばない、けがをしない指導をしてほしい。身に付けさせたいこととして教えてほしい。体操を全校の前で代表として行う生徒の人数を減らしてほしい。いろいろな活動も人前でさせるなら恥をかかせないように事前の指導をしっかりと行うべきで、体育祭の注意事項についてもメモを読み上げるのではなく、伝えることが大切なのでしっかりと自分の言葉で伝えられるよう指導してほしい。体育祭の来賓の把握ができていなかったが、組織としてして来賓の把握はすべきである。国旗掲揚のとき桜の木が邪魔をして見えないので剪定をした方がいい。全体のアナウンスを行う生徒は選抜をして出した方がいい。学習成果発表会についても発表者の人数を減らすべきである。プレゼンのレベルについて上げるように指導してほしい。各分掌の評価についてBばかりではなく、Aを付ける努力をしてほしい。揖斐川マラソンの司会は選抜で決められないか、中学生にとって、揖斐高に来たらマラソンの司会ができるということは憧れであり、それなりの人物にやってほしい。
- 意見4 何かに一生懸命になることは思い出となる。行事などは良い機会である。社会人になったときはチームとして動かなければならないことが多々ありそのことを踏まえた指導をしてほしい。キャリアアンカーの考え方をどう教えるか（やる気があっても適性がない場合がある）。自転車のマナーが以前よりもよくなってきた。遅刻者は減少してきたが、0になるよう努力してほしい。デュアル実習を通して適性を見極めて進路につなげてほしい。評価の低いところを分析し、次の課題へつなげるようにしてほしい。親子間の配布物の受け渡しは徹底されていないことは良くないので%が上がるようにしてほしい。

会議のまとめ

今回は、事前に学習成果発表会にご出席していただきご意見を伺いたいとお伝えしてあったため、委員の方から学習成果発表会についての感想やご意見をいただくことができた。ほとんどの委員の方から学習成果発表会の取組について高い評価をいただくことができた。普段の授業の姿や活動の様子だけでは見られない生徒の成長した姿をみていただくよい機会となり、このような機会を地域の方や保護者、中学生へと広げ、本校の魅力を発信していくことも必要だと感じた。また、ご提言いただいた卒業式のマナーや代表者として行う生徒の指導については、学校全体の課題として取り組み、より一層の充実を図っていききたい。